

平成30年度授業改善推進プラン

東村山市立東村山第五中学校 第3学年

教科等	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策 【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	覚えなければならない文法事項の習得や使える漢字、言葉の力を増やそうとする意欲は高いとは言えない。古典の暗唱には前向きに取り組む生徒が多いが、内容に対する関心は深まっていない。	週一度の漢字テストを継続し、定着を図る。語句の意味調べを通して「わかる言葉」、「使える言葉」を増やしていく。授業プリントなどを工夫し、授業改善にも努める。
	思考力, 判断力, 表現力等	自分の考えや意見をまとめ根拠を示し、構成を考え適切な言葉を使って表現したり、話し合ったりすることを苦手とする生徒が多い。	教材と関連させて、自分の意見や感想を根拠を示して、発表したり、書いたりする学習の機会を増やしていく。
	学びに向かう力, 人間性等	朝読書を実施し、話し合いの学習や発表の機会を設けているが得意不得意など学習に対する取組の差も大きい。	言葉を通じて、他者や内容を理解したり自分の見方や考えたりする態度を育てていく。
社会	知識及び技能	生活経験で得られる知識が圧倒的に足りない子供も多い一方で、足りないなりに自分でそれを使って思考することができる。	ニュースの話題や、社会的な用語の解説などを積極的に行っていく。
	思考力, 判断力, 表現力等	自分の生活経験から思考判断を行うことはできるが、客観的に複数の立場から物事を見ることは難しく、独りよがりになる面がある。	立場を分けてものを考え、それを統合していくような思考活動を学習活動に取り入れていく。
	学びに向かう力, 人間性等	周りの仲間たちと協力して答えを出そうとする態度は十分に身につけている。自分から情報を積極的に得ようとする気持ちは弱い。	自主学習の課題などを通じて、自分から情報を集める態度を養っていく。
数学	知識及び技能	技能面においては計算練習などに前向きに取り組む着実に力をつけてきている。数学的な知識についても意欲的に取り組む姿勢が見られる。	小テスト・宿題・ワーク提出などで計算や知識については日頃からよく見るようにし、生徒の力が着実につくようにしている。
	思考力, 判断力, 表現力等	数学的な思考力を必要とする問題（例 記述式の証明問題など）では論理的に考えることが苦手である。基礎力の不足と問題文を読み取る力に課題がある。	授業内で数学的思考力を要する問題を取り上げ、論理的に考えたことを記述できるような指導をしていく。
	学びに向かう力, 人間性等	基礎力に課題が残る生徒がやや多く、数学に興味を持つ生徒の割合が少ないので、意欲的には高くはない。	数学的に面白い教材を取り上げると共に計算などの基本事項を丁寧に指導し、繰り返し練習させていく。
理科	知識及び技能	実験・観察に対して意欲がある生徒が多い。発言も意欲的にできる。一方で、各学級で忘れ物が多く見られる。授業規律の徹底に努めることが大切。	教材や導入の工夫。ICTを効果的に用いる。頑張る生徒の取り組みを積極的に紹介する。
	思考力, 判断力, 表現力等	予想を立て、実験結果から自ら考察し、答えを出すことに苦手で力の差が大きい生徒もいる。話し合い活動で自分の意見に自信をもてない生徒がいる。	なぜそうなるのか、実体験をもとに意見交換をさせる話し合い活動の充実。個別の振り返り指導。
	学びに向かう力, 人間性等	実験器具の使用技術や観察力に差がある。実験観察は好きだが大幅に時間を要する生徒や、苦手意識をもつ生徒も多い。	パフォーマンステストや少人数による作業を多く取り入れる。個別の振り返り指導。
音楽	知識及び技能	基本的な内容や暗記事項はこなせるが、記述式や発展問題に苦手意識が高い。問題演習では、分からない問題をそのままにしておく傾向が強い。	授業の板書記録やテスト直しの際に、関連づけて内容を理解させ、知識の定着を図る。個別の学習アドバイスの機会を増やす。
	思考力, 判断力, 表現力等	合唱では自ら考え、表現をするにはまだ時間がかかるように思える。個々のレベルの差がある。	個々に対しての上達や努力をわかるように評価し、励みとさせる。
	学びに向かう力, 人間性等	大多数の生徒は、積極的に学ぼうという姿勢が見受けられる。集団では歌声の音量が出てきた。	合唱ではクレス全体で声を合わせ、心を通わせ喜びを実感させられるように指導していく。もう少し音取りのスピードを上げていく。
美術	知識及び技能	技能において、いかに良い作品に仕上げられるかを考えながら丁寧に作業に取り組んでいる。	・ICT「書画カメラ」を用いて、実際の作業手順を見せることで視覚的に理解しやすくなるよう心がけている。 ・作業時の机を班活動の形で行うことで中々作業に取り掛かれない生徒でも友達とアドバイスし合える環境を作っている。
	思考力, 判断力, 表現力等	作品の制作に入る前の導入（練習課題）では一緒に作業をし、そこで基礎・基本的な内容について時間をかけて取り組ませているので、作業手順などは理解できているが、見通しをもって作業するのが苦手な生徒が多く、作品完成に向けての時間がかかる。	
	学びに向かう力, 人間性等	数名、なかなか作業に取り組めない生徒もいるが、全体的に落ち着いてよく取り組んでいる。	授業後の振り返りカードを使い、わからないところは次の授業までに個々に返事を返すことでスムーズに作業に取りかかれるようにしている。
保健体育	知識及び技能	運動経験や体力差による個人差が大きい。特に苦手とする生徒への働きかけが課題である。基本的用語を覚えたり、身につけようとする気持ちは見られる。保健ではノートに記入したり、問題を解く姿勢もある。	ICT機器の有効活用。言葉の説明の理解をより正確に詳しく伝えられるよう活用する。技能については机間巡視で個別指導をしたり、できる生徒が教える形などをとる。

平成30年度授業改善推進プラン

東村山市立東村山第五中学校 第3学年

教科等	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策 【主体的・対話的で深い学び】
保健体育	思考力, 判断力, 表現力等	友達同士の声かけができるようになり、教えあい学びあいの形ができつつある。カードへの記入は真剣にできている。	保健体育ワークの活用。学習プリントの有効活用。レポート課題の実施。
	学びに向かう力, 人間性等	運動好きな生徒も、運動を苦手としている生徒も意欲的に参加できている。単元に興味を示し、自分なりに向上しようとする気持ちがあり、基本的な授業規律は守られている。 忘れ物をするときがあり、全員で取り組めないことがあるのが残念である。	単元導入時でのカードを有効活用したり、オリパラに話題を重ねて身近なスポーツとして取り組ませる。また、特性を正しく教えできないではなく、できそうだと思う指導にあたる
技術家庭	知識及び技能	作業に関する知識はあるものの、玩具を製作する技能やPC機器操作の技能が低下している。	ワークシートの活用や優れた作品を紹介し、作業進捗の確認と個別指導を充実させる。
	思考力, 判断力, 表現力等	工夫したデザインに応じた刺しゅうができず、安易に課題や作品を完成させる傾向がある。PC操作による作品も表現力が乏しい。	創造工夫のポイントや仕上がりを例示し、完成イメージをもたせる。
	学びに向かう力, 人間性等	家族や地域との関わりや情報社会の問題を自身の生活に結び付けられていない。	授業で学んだことを実社会の中で将来にわたり役だてて、柔軟な発想と豊かな生活を送る方法を考えさせる。
英語	知識及び技能	小テストやビンゴで単語を覚え満点をとる生徒も回数を重ねるたびに増えている。外国の文化にも触れ、日本との関係など知識を深める。	小テストを行い、自信をつけさせる。基礎文を覚えさせ、文の構造を理解させる。外国の文化、日本の文化などにも触れさせる。
	思考力, 判断力, 表現力等	簡単な英文1文を書かせて力をつけさせる。レディングは意欲的に取り組んでいる。長文読解が苦手な生徒が多いので、短い文章（100語前後）から読み取れるよう、読解力をつける。	ライティングとレディング力を高められるよう簡単な文章で、自己表現できるようにする。リスニング活動も増やす。
	学びに向かう力, 人間性等	多くの生徒が英語でのコミュニケーション活動に関心を持っている。音読や暗唱も積極的に取り組んでいる。また、小テスト、スピーチ、スペコンなど、意欲的に取り組んでいる。	英語のリズムや文法を覚えるように心がけ、意欲を高める工夫をする。小テスト、スピーチ、英作文で自信をつける。
道徳	知識及び技能	道徳性を養うために必要なものはその人の心を揺さぶりより高い人間性を身につけると考えるとすると、生徒が友達同士で話し合ったりすることで、お互いの心を高め合うまでは現状ではないが、お互いの考えを自己開示できるようにはなっている。	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、読み物資料を中心に紙芝居や視聴覚教材を取り入れ、生徒の意欲向上を図っている。
	思考力, 判断力, 表現力等	読み物資料などから自己を見つめることはできるようになってきている。課題としては物事を多面的にみることである。自分の考えにこだわり過ぎたりする面もあり柔軟に考えられると良い。	話し合い活動のやり方を工夫するなどして生徒同士の意見・考えを言いやすい・聴きやすい環境を作るようにしている。
	学びに向かう力, 人間性等	道徳の授業への取り組みは考えやすい内容であれば意欲的に取り組もうとする姿勢は概ねみられる。しかし、自然・生命など自分からやや離れた教材に関しては意欲が下がる部分がある。	難しい内容については授業案に取り組みやすいように授業展開に工夫をするようにしている。
特別活動	知識及び技能	日々の生活や行事を通して意欲的に活動しようとする傾向が多く見られるようになった。学校行事では実行委員等のリーダーを中心に一人一人が協力的に取り組んでいる。	何事にも役割と責任をもって行動させていけるよう、意図的に環境設定していく。当事者意識をもって考えさせ、活動を認め、賞賛していく。特に学校行事では、ジグソー法やワールドカフェの手法を用いる。
	思考力, 判断力, 表現力等	班の当番の仕事や係の仕事、委員会活動に責任をもち、自主的に取り組もうとする生徒が増えてきた。集団力の向上と諸問題の解決に向け、一人一人が意見を出し合い、お互いを認め合えるような環境づくりをしていきたい。	エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを重視していく。自己評価と相互評価を定期的にもたせる。様々な場面で個別のアドバイスを与えていく。
	学びに向かう力, 人間性等	自信をもって集団活動していくための知識やアイデアをもたせていく必要がある。集団活動を高めていくためにはどのような目標設定や取り組みが必要か、学級活動や生徒会活動、学年集会等でのふり返りを通して整理していく必要がある。	QUテストの結果を校内研修を通して学年全体で共有する。個別生徒の対応を意図的にに行い、積極的に支援していく。
総合的な学習の時間	知識及び技能	自分の興味・関心の高い分野においては、積極的に知識・技能を習得しようとする。他の場合は、取りかかりが遅く、時間がかかる。	調べ学習が身につけていく過程がわかる指導方法・取り組みをさせる。
	思考力, 判断力, 表現力等	面倒なことを嫌がる傾向もあるが、大半の生徒が情報収集と発表の力が高まっている。個人差が大きい。	時間をかけ丁寧に指導することと、情報収集と発表をする機会を設定していく。
	学びに向かう力, 人間性等	百らの進路や将来の目標の設定や展望を苦手とする生徒も多い。他者との関わりについては、徐々に自己実現をしつつ他者とも円滑に関係を築いていける力を伸ばしたい。	昨年度までの上級学校訪問等の経験を生かしつつ、現実的な自分の問題として意識を高め、将来を考えさせたい。